

女子学生における和柄の印象評価

Visual Impression Evaluation of Japanese Designs for Female University Students

由利 素子

Motoko Yuri

要旨

日本の伝統的な和柄に対して、現代の若者が持つイメージを調べるために、和柄15種と現代物柄5種について、白黒で紙に印刷したものを試料とし、SD法を用いて各柄の印象評価を行った。被験者は本学的女子学生30名である。項目ごとに各柄の印象評価の平均を求めた。更に20柄の評価傾向を絞り込むためにクラスター分析を行い、柄を3クラスターに分類した。また、柄と項目との関係を調べるため、因子分析を行った。

柄の印象は、モチーフと表現の仕方で異なる。単純で細かい連続柄（青海波、網文様etc.）は、大人っぽい、暗く昔風、かたい、平凡、重い、面白くないと感じている。動植物柄で動きがあるもの（ねじ梅、桜文様etc.）は、お洒落で明るくやわらかく軽いという印象になる。また、柄が大きく濃淡がある柄は印象が大きく異なり、和柄であっても、今風で個性的、面白く派手で新しく洋風な印象（蝶、弁慶格子etc.）となる。

14評価用語から「個性」「親しさ」「魅力」の3因子が抽出された。和柄の多くは、個性や親しさは低く感じられている。魅力のある柄として、動植物が描かれている柄や、濃淡がはっきりしている柄が選ばれている。

●キーワード：和柄（Japanese designs）／印象評価（impression evaluation）／因子分析（factor analysis）

I. 緒言

日本には伝統的な和柄が数多くある。それらの柄は、着物や帯などの和装品、更には風呂敷、手ぬぐいといった染織品や、絵画、陶磁器などの美術工芸品などに描かれてきた。絵柄は、趣向をこらしデザイン化されており、面白さや素敵さを感じず。更に色により渋さや豪華さが加わる。また、それぞれの柄の持つ意味や由来は、非常に興味深く、それらを知ると更に愛着を感じず。これらの和柄を現代のテキスタイルデザインに有効に活かしていきたい。しかし、伝統的な和柄は伝統品、工芸品に使用されることが多く、これらのものは高価で一般的ではないことから認識度が低い。更に最近のテキスタイルデザインは、奇抜でかわいいものが多く、伝統的な和柄は影を潜めている。今後、伝統的な和柄をテキスタイルデザインとして有効的に活用していくためには、多くの人に和柄の素敵さを知ってもらう必要がある。

そこでまず、現代の人が和柄に対してどのようなイメージを抱いているかを理解することが肝心である。ここでは、和柄に対して若者が感じている印象を、印象評価により調べることにした。

II. 実験方法

1. 柄試料

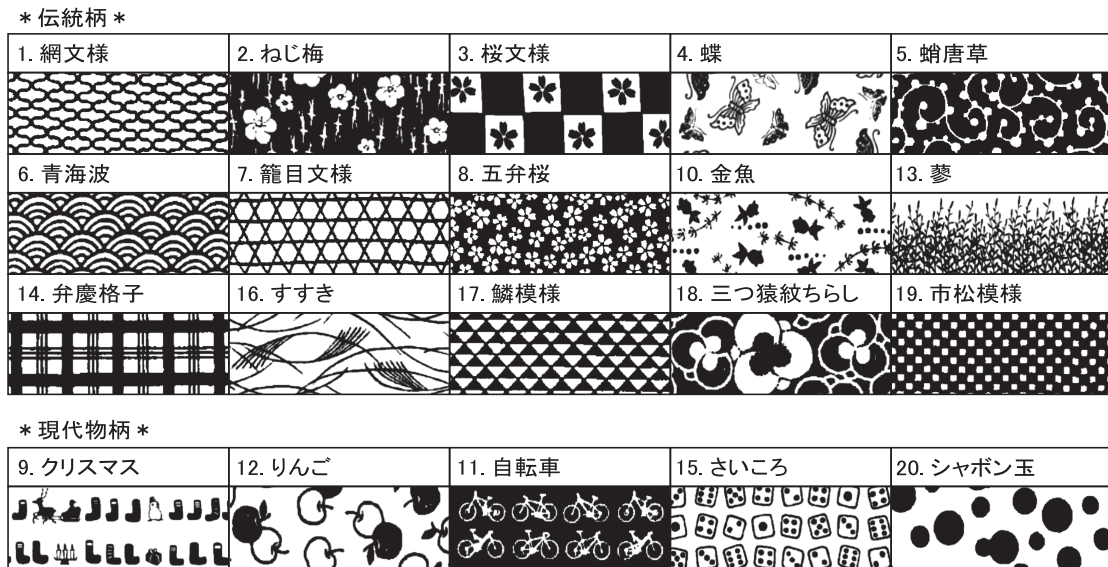
数多くある和柄から柄を絞り込むために、手拭柄見本帳¹⁾を参考に選定することにした。選定には、柄の由来を調べ、古典的、伝統的な和柄であることが確認できた柄から、単一柄、連続柄、模様の大さき、配置や、被験者の年齢、性別などを考慮し、抽象柄と幾何学柄から7種類、動植物をモチーフにした具象柄から8種類と、比較として現代物柄を5種類、計20種を試料とした。

見本帳の柄をPhotoshopに取り込み、そこから柄の特徴が活かされるような一部分を切り取り、切り取った柄をたて95mm、よこ285mmのサイズで、白黒で紙に印刷した。柄の視覚印象評価は色味による影響が特に大きいことが報告されていることから²⁾³⁾、今回は柄のみの印象を引き出すことを目的とするため、色の要素を除き、全て白黒柄とした。20種類の柄名と柄を表1に示す。

2. 印象評価

各柄の印象を引き出すため、評価法はSD法を用いた。それぞれ対の用語間を、「どちらでもない」から「やや

表 1 印象評価試料



「少し」「かなり」の7段階に区分し評価を行った。評価形容詞対は、印象評価手引書⁴⁾⁵⁾と柄の印象評価を研究している論文²⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾を参考に、柄の基本的なイメージが引き出せるような形容詞対14項目(図1参照)を選択した。被験者は、本学の女子大学生3、4年生(20歳~22歳)30名である。全ての試料を同一の被験者が評価した。評価は2012年9月~11月に実施した。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 印象評価結果

SD法のデータ処理は、「どちらでもない」を0点として、「やや」を1点、「少し」を2点、「かなり」を3点の評価点として、右の項目を+、左を-として、各項目の柄ごとに30名の評価点の平均値を算出した。また、分散分析により、評価項目ごとに柄試料間の差を求め

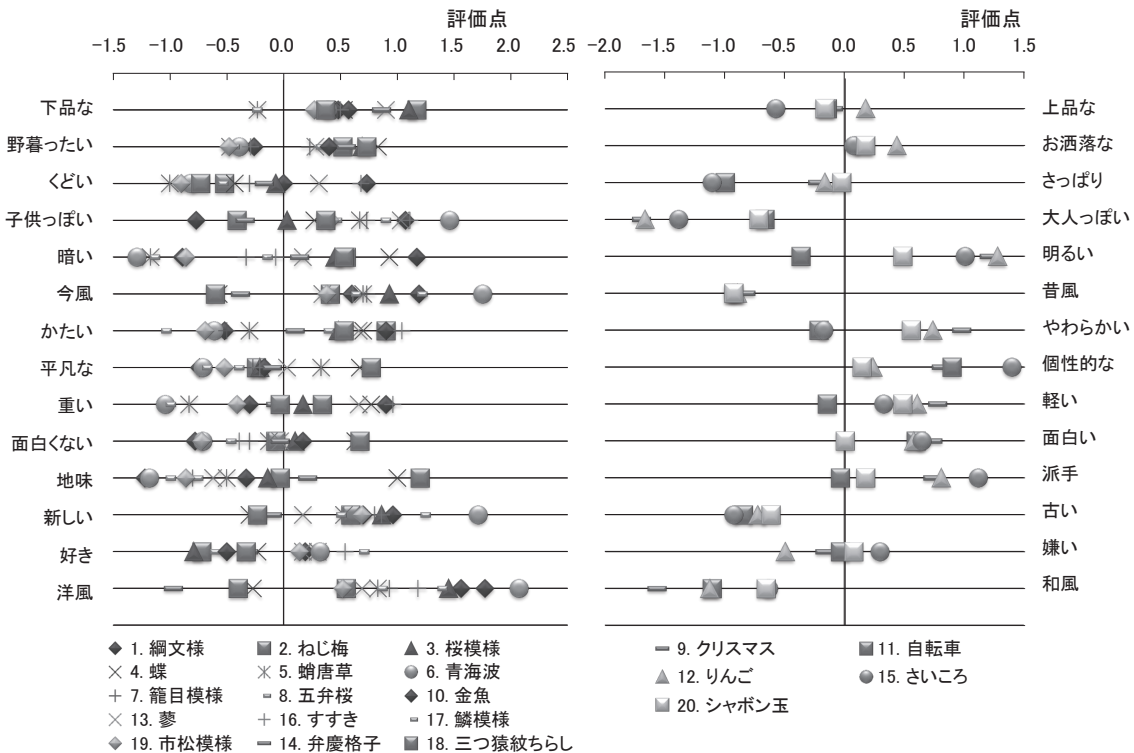


図 1 和柄(左)と現代物柄(右)の印象評価

た。その結果、全ての項目で、危険率1%以下で柄間の有意差が認められた。これは、柄によって印象が異なるということを示している。

柄数が20種類と多く、各柄の傾向が捉え難いため、和柄と現代物柄に分けて図示し、印象評価結果の検討を行った(図1)。

和柄は、柄によって評価が左右の項目に分散し、一様に印象を述べることはできないが、比較的一致している評価項目は、上品な、くどい、大人っぽい、昔風、地味、古い、和風、という印象を示す柄が多く見られた。しかし、昔風、地味、和風という印象が多い中で、今風、派手、洋風な印象の柄が和柄の中にもあり、蝶と弁慶格子、三つ猿紋ちらしがそれらの印象を持つ柄である。

評価項目の好き側に評価されている柄は、桜文様、ねじ梅、五弁桜、金魚、三つ猿紋ちらし、弁慶格子、蝶の7柄で、これらは、動植物が描かれているものと今風で洋風な柄のものが選ばれている。

好き(No.13)と他の項目との相関をみると(図2)、1.上品、2.お洒落、4.子供っぽい、5.明るい、10.面白いと評価されている柄が好きと評価されている。

現代物柄の印象は、くどい、子供っぽい、明るい、今風、個性的な、軽い、面白い、派手、新しい、洋風であり、多くの和柄とは異なる印象を示す。

2. クラスター分析

次に、20柄の印象評価の結果に分散が見られることから、柄の印象評価の傾向を絞り込むために、印象評価

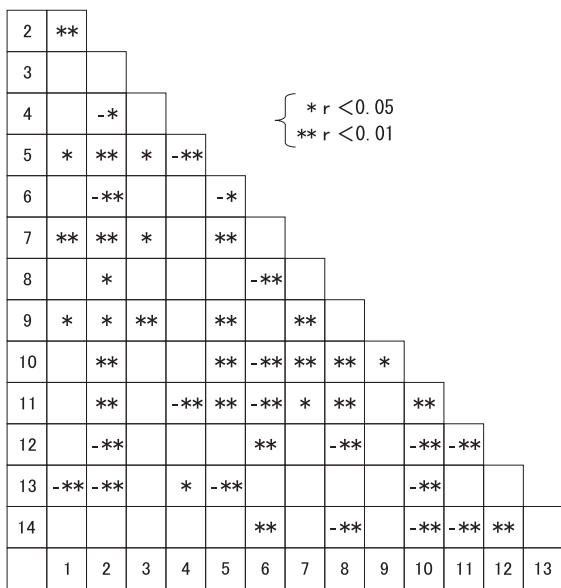


図2 印象評価項目間の相関性

の平均値を用いクラスター分析を行い、柄の分類を試みた。結果を図3に示す。レベル5以下で3クラスターに分類された。図3に示す上方の7柄のクラスターをAグループ、次の5柄のクラスターをBグループ、下方の8柄のクラスターをCグループとした。

各クラスターの柄は、Aグループは、1.網文様 6.青海波 7.籠目文様 8.五弁桜 5.蛸唐草 17.鱗模様 19.市松模様の7柄である。このグループの柄は全て和柄で、単純な柄や幾何学模様が規則的に繰り返し描かれている。

Bグループは、2.ねじ梅、3.桜文様、10.金魚、13.蓼、16.すすきの5柄である。このグループの柄も全て和柄ではあるが、柄が理解できる動植物柄が描かれており、更に、柄に動きが見られるグループである。最後のCグループは、現代物柄5柄全てと和柄の4.蝶 14.弁慶格子 18.三つ猿紋ちらし3柄の、計8柄の混合グループである。和柄3種のモチーフに共通性はないが、試料サイズに対して絵柄が大きく描かれており、柄に濃淡が付き変化があるものが選ばれている。

グループごとに柄の印象評価結果を図示すると、概ね似た評価傾向をそれぞれ示す(図4)。

和柄のみのAグループの柄は、野暮ったい、くどい、大人っぽい、暗い、昔風、かたい、平凡な、おもい、面白くない、地味、古い、和風という印象の柄である。次の和柄のみのBグループは、昔風、古い、和風の印象はAグループと同じであるが、全ての柄が上品であり、Aと異なる評価は、お洒落な、明るい、やわらかい、軽い、であり、一部さっぱり、子供っぽいと評価されてい

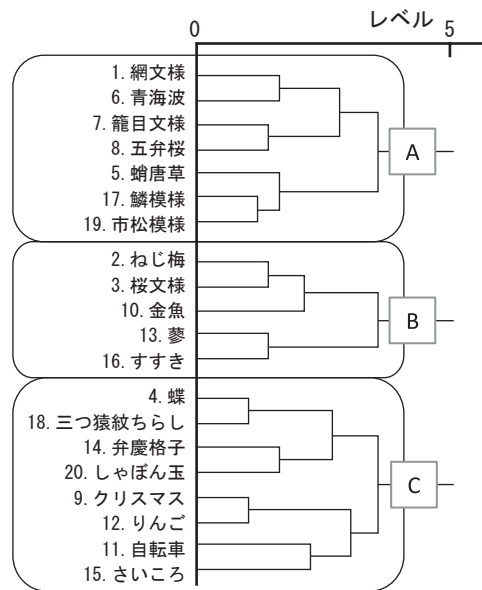


図3 クラスター分析によるデンドログラム

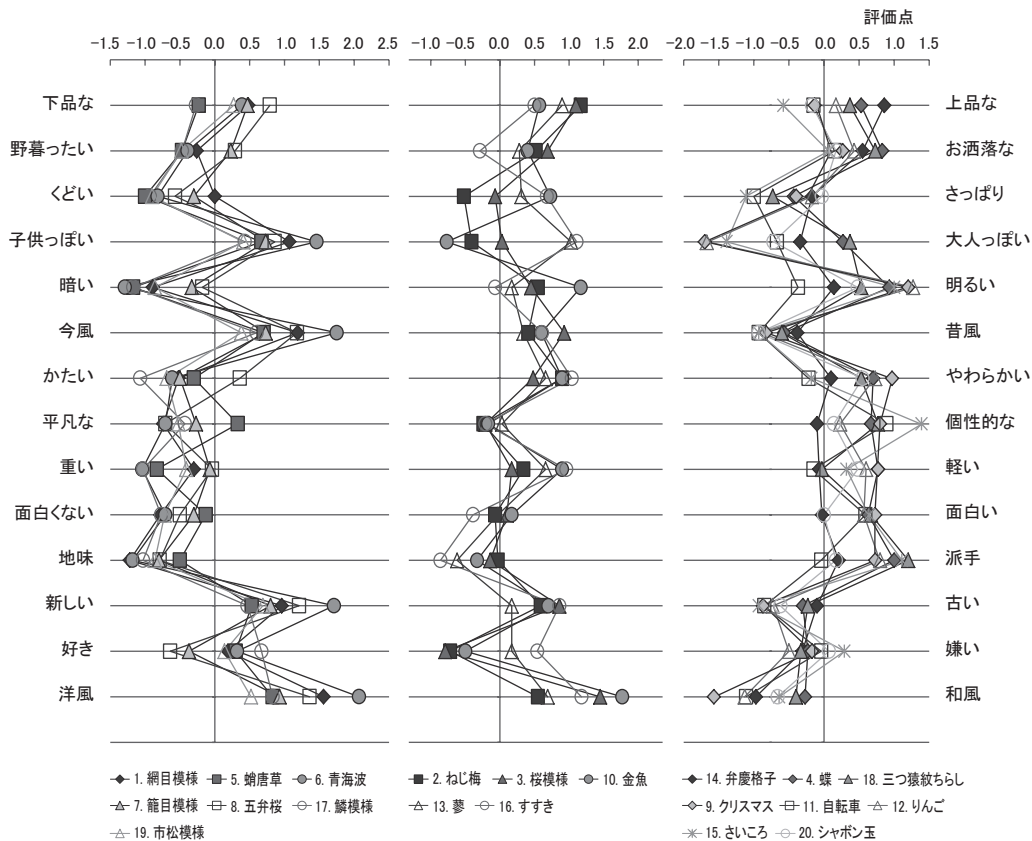


図4 クラスター別印象評価

る柄もある。これは、Aは単純で規則正しい柄なのに対して、Bのグループは柄に動きが見られ、更に動植物が描かれていることで親しみを感じた結果であると思われる。Cグループの柄は、今風で個性的、面白い、派手で新しい、洋風という評価であり、A、Bグループの柄と大きく評価が異なる。更にお洒落で、明るい、やわらかい、かるい、という評価が加わり、Bの柄と同様に親しみを感じる柄といえる。Cグループには和柄の蝶と三つ猿紋ちらしと弁慶格子があり、和柄の中にも現代物柄と同じ評価傾向を示す柄がある。

3. 因子分析

更に、各項目の評価が柄とどのように関係しているかを検討するために、印象評価の平均値を用い因子分析を行った。バリマックス法回転後、3因子を抽出し因子得点を求めた。第3因子までの累積寄与率は86.85%であった(表2)。

各因子の特徴を次のようにまとめた。第1因子は14項目中8項目からなり、目立ちや新しさを表す用語から「個性」の因子とした。第2因子は3項目からなり、気軽でなじみやすさを意味することから「親しさ」の因子

とした。第3因子は3項目からなり、魅力を表す用語から「魅力」の因子とした(表2)。

20柄の各因子の因子得点を図示し、関係について検討した。因子1と因子2の関係を図5、因子1と因子3は図6、因子2と因子3を図7に示した。クラスター分

表2 因子負荷量(バリマックス法回転後)

評価用語	factor 1	factor 2	factor 3
平凡な - 個性的な	0.904	0.007	-0.014
地味 - 派手	0.881	0.100	0.358
面白くない - 面白い	0.864	0.207	0.329
暗い - 明るい	0.620	0.587	0.446
子供っぽい - 大人っぽい	-0.775	-0.173	-0.134
洋風 - 和風	-0.895	0.013	-0.022
今風 - 昔風	-0.957	-0.118	-0.008
新しい - 古い	-0.974	-0.090	0.058
重い - 軽い	0.363	0.888	0.226
くだい - さっぱり	-0.258	0.864	0.089
かたい - やわらかい	0.269	0.765	0.412
野暮ったい - お洒落な	0.348	0.278	0.844
下品な - 上品な	-0.547	0.312	0.670
好き - 嫌い	-0.068	-0.166	-0.870
累積寄与率(%)	47.87	68.4	86.85

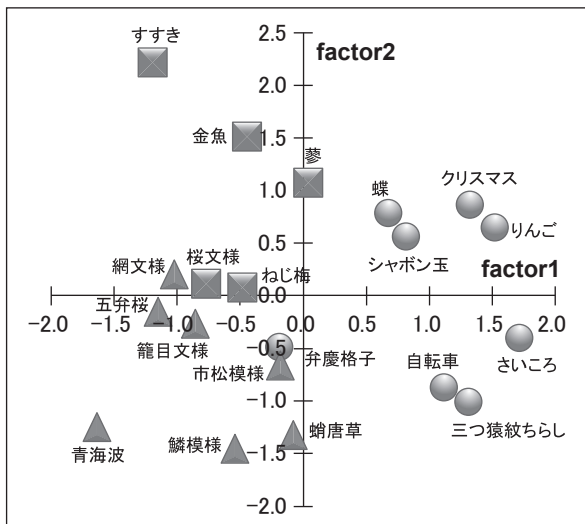


図5 因子1と因子2による因子得点

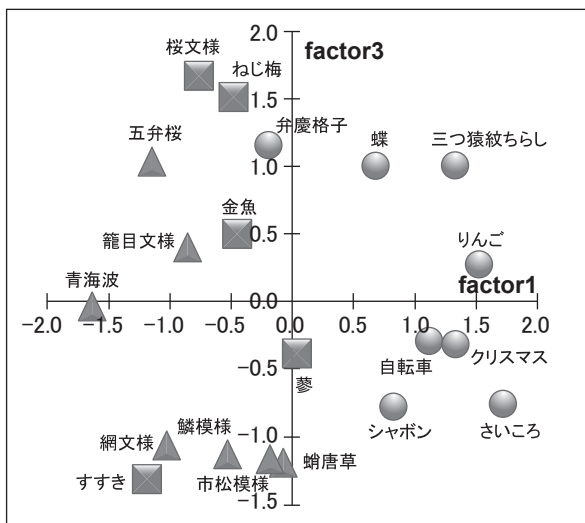


図6 因子1と因子3による因子得点

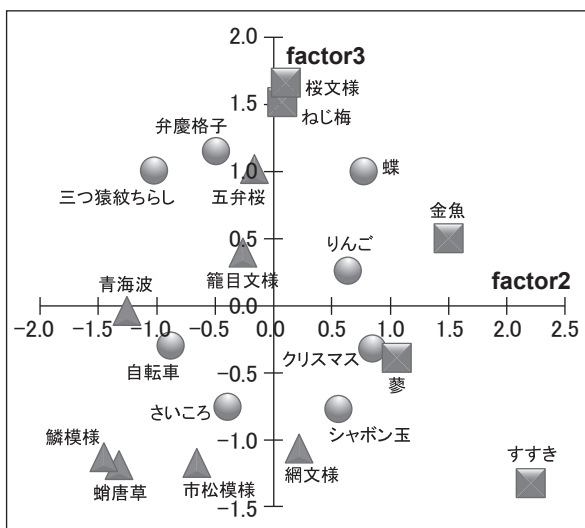


図7 因子2と因子3による因子得点

析でグループ化された柄ごとにAグループの柄は▲、B柄は■、C柄は●で示した。

図5は、横軸に「個性」、縦軸に「親しさ」の因子得点を示したものである。個性の得点がプラス側を示すと親しさの得点はマイナス側へ、親しさの得点がプラスを示すと、個性の得点はマイナス側を示す傾向が一部の柄間で見られる。

因子1の「個性」の得点が高い柄はCグループであり、印象評価で個性的と評価されていた柄である。A、Bグループの柄、即ち和柄はマイナス側に位置しており、特に青海波が大きくマイナスとなっている。従って多くの和柄は個性が少ないと感じられている。

「親しさ」の因子では、Aの柄はほぼマイナス側に位置しており、これは印象評価でAの柄は野暮ったく、暗く、かたい、重いという評価が関係していると考えられる。特に蛸唐草、鱗模様、青海波はマイナスに値が大きく、親しさを感じられない柄である。Bの柄はAの柄と異なり、全てプラス側に位置しており、特にすすき、金魚、蓼の3柄の得点が高く、親しさを感じる柄である。Cの柄はプラス側とマイナス側に分散している。親しさを感じる柄は、蝶、シャボン玉、クリスマス、りんごの4柄で、親しさを感じない柄は自転車、三つ猿紋ちらし、さいころである。「親しさ」を感じる柄は、全体的に動植物が描かれており身近なモチーフのものが多く、印象評価では、明るい、やわらかい、軽いという評価の柄である。逆に親しさを感じない柄は、単調な柄であり、柄の意味がわかりづらいものである。Cグループの蝶とシャボン玉、クリスマス、りんごの4柄は「個性」「親しさ」ともにプラスの値を示し、Aグループの柄は、「個性」「親しさ」ともにマイナスの値を示す。

次の図6は、横軸が「個性」、縦軸に「魅力」の因子得点を示したものである。「個性」と「魅力」の因子間に相関は見られない。個性があるCグループでも、個性がないA、Bグループでも、魅力を感じる柄と感じない柄に分かれる。「魅力」の得点がプラスの柄は、Aグループでは、五弁桜と籠目文様、Bグループは、桜文様、ねじ梅、金魚、Cグループは、弁慶格子、蝶、三つ猿紋ちらし、りんごであった。魅力がある柄は、女性向きのモチーフを使用しているものや大柄で濃淡がはっきりしているものを魅力があると感じている。「魅力」が大きくマイナスを示す柄は、すすき、網文様、鱗模様、蛸唐草、市松模様であった。

すすきは、「親しさ」では高い値を示していたが、「魅

力」では低い値を示している。「魅力」の得点が高い柄の共通した印象評価は、上品でお洒落で好きと評価している柄である。蝶と三つ猿紋ちらしは、「個性」「魅力」の両因子ともに得点が高い柄である。

図7は、横軸に「親しさ」縦軸に「魅力」の因子得点を示したものである。やはりこれも両因子間の相関は見られない。「親しさ」「魅力」共にプラスを示す柄は、和柄では蝶と金魚、現代物柄ではりんごの3柄のみであった。これらの柄の共通した印象評価は、お洒落で明るくやわらかい、軽い、好きという評価であった。

因子分析の結果を整理すると、伝統的な和柄で「個性」を感じる柄は、三つ猿紋ちらしと蝶のみであった。「親しさ」を感じる柄は、すすき、金魚、蓼、蝶の4柄のみであった。従って和柄は個性や親しみを感じないものが多い。「魅力」を感じる柄は桜文様、ねじ梅、弁慶格子、五弁桜、三つ猿紋ちらし、蝶、金魚、籠目文様の8柄と比較的多く見られた。全体的に得点が高い柄は、柄のモチーフがわかりやすく、動植物が描かれているもの、柄の配列に動きや変化があるもの、濃淡がはっきりしているものが選ばれている。

2因子にプラスの値を示した和柄は、「個性」と「親しさ」では蝶、「親しさ」と「魅力」では金魚と蝶、「個性」と「魅力」では三つ猿紋ちらしと蝶の柄であった。更に3因子全てにおいてプラスを示した柄が一つあり、個性的で魅力があり、且つ親しみを感じる和柄は『蝶』であった。これは、蝶の表現法が伝統的で豪華さと女性らしさを示すことで、個性と魅力を感じ、蝶自体は非常に身近なものであることが親しさを感じた結果であると考えられる。

IV. まとめ

伝統的な和柄に対して、現代の女子学生がどのように感じているかを印象評価によって調べた結果をまとめると、次のようになる。

(1) 印象評価の結果、多くの和柄は、上品でくどい、大人っぽい、地味、昔風で古いという印象を持っている。しかし、和柄の中にも今風、派手、洋風という印象を持つ柄があり、蝶と三つ猿紋ちらしと弁慶格子である。

好きと感じる柄の要因は、上品でお洒落でやや子供っぽい、明るい、面白いと感じる柄である。

(2) 15の和柄は、印象評価傾向が3グループに分類された。

1グループは、網文様、青海波、籠目文様、五弁桜、蛸唐草、鱗文様、市松模様の7柄で、大人っぽいのが暗く昔風、かたい、平凡、重い、面白くないと感じている柄である。ここでの柄は、単純で細かい絵柄の繰り返しで示されている柄や柄の意味がわかりづらいものである。

2グループは、ねじ梅、桜文様、金魚、蓼、すすきの5柄で、お洒落で明るく、やわらかく、軽いという印象に変わる。ここでの柄は、動植物が描かれていることで柄がわかりやすく、更に動きがあることで印象が異なった。

3グループは、蝶、三つ猿紋ちらし、弁慶格子の3柄で、今風で個性的、面白く、派手で新しく、洋風と印象が大きく異なる。柄を拡大し濃淡をつけた柄である。

(3) 14評価用語から、「個性」「親しさ」「魅力」の3因子が抽出された。和柄で「個性」と「親しさ」がプラスを示した柄は、それぞれ三つ猿紋ちらしと蝶の2柄と、すすき、金魚、蓼、蝶の4柄と少なく、和柄は、個性や親しさが低く感じられている。「魅力」の因子では、15柄中8柄がプラスを示し、これらの柄（桜文様、ねじ梅、弁慶格子、五弁桜、三つ猿紋ちらし、蝶、金魚、籠目文様）は、女性向きのわかりやすいモチーフのもの、柄の濃淡がはっきりしているものが選ばれている。

(4) 和柄で「個性」「親しさ」「魅力」全てにプラスと感じた柄は『蝶』であった。蝶自体は身近なもので「親しさ」があり、大小の蝶が向きや形を変えて複雑に配置されていることで「個性的」で「魅力」があると感じられる。

柄の意味が理解しにくいものや単調なものは好印象が得られない。しかし、柄の配置が単調にならないような工夫や、濃淡で変化をつけるなどすることで、若者にも興味ある柄になり得ることが確認された。

今後テキスタイルに展開していくためには、前述したように、色味が柄の印象に大きく影響を与える。評価用語によっては、色味の違いで相反する評価を示し、イメージが大きく異なる。従って、色による評価の検討は必須である。

また、柄試料の呈示方法によっても印象は異なり²⁾⁹⁾、今回は平面状での視覚印象評価であったが、これが衣服に柄を示し、立体状での呈示となると、印象が異なることもある。柄の大きさや配置についての検討が必要となる。

和柄をテキスタイルデザインとして展開していくには、今後更なる研究が必要であろう。

最後に大西友恵氏（2011年度卒業生）の本報の実験における真摯な寄与を特に付記しておく。

参考文献

- 1) 大澤美樹子『手拭いづくし』バナナブックス, 1999
- 2) 華晴, 由利素子, 森川陽「チェック柄の視覚評価に及ぼすプリント加工の影響の紙模型による検証」『織消誌』49, 1, 2008, 49-64
- 3) 内藤章江, 橋本令子, 加藤雪枝「衣服の色彩と呈示方法が着装者に及ぼす心理的・生理的影響」『織消誌』48, 12, 2007, 853-862
- 4) 現代構造研究所『テキスタイル・クリエイション [2]』繊維工業構造改善事業協会, 1989, p.(145)
- 5) 岩下豊彦『SD法によるイメージの測定』川島書店, 1996, p.(164)
- 6) 小林未佳, 森川陽「染色テキスタイルの視覚印象評価に及ぼす糸密度の影響」『感性工学会研究論文集』6, 2, 2006, 36-44
- 7) 李有鎮, 成瀬信子「水玉模様に対する視覚評価—水玉の配置を中心として—」『家政誌』52, 6, 2001, 533-543
- 8) 乙益絹代, 兼子良子「模様の視覚効果に関する基礎的研究 第1報 水玉模様のイメージ」『熊本女子大学学術紀要』44, 1992, 197-205
- 9) 内藤章江, 橋本令子, 加藤雪枝「衣服の呈示方法が着装者に及ぼす心理的・生理的影響」『織消誌』48, 4, 2007, 255-264
- 10) 加藤雪枝「衣服の模様が及ぼす心理的・生理的影響—SD法, 脳波, 心電による解析—」『家政誌』57, 8, 2006, 543-553
- 11) 熊谷博人『日本の文様 染めの型紙』(株)クレオ, 2006
- 12) コロナ・ブックス編集部『日本の文様』平凡社, 2009
- 13) 菅民郎『アンケートデータの分析』現代数学社, 2010
- 14) 花林舎『日本の文様図典』紫紅社, 1996